

卓話「成田山蓮華不動院沿革」

宮坂 宥澄 会員



明治18年(1885年)、地元有志が、この山の祠のそばに不動尊石像を奉ったのが始まりで、成田山蓮華不動院は今年で開創129年を迎えます。来年が丁度130周年ですので、例大祭で記念式典が出来れば良いと思っています。

明治21年、岡谷下町の、林源三郎、小林森太郎、小口百太郎氏らは埼玉県本庄から木造の本尊不動明王を迎え、成田山新勝寺で開眼供養しました。照光寺第二十六世の宮坂宥詠師が先達主管となりました。曾祖父宥詠僧正は、岡谷小学校の初代校長でもあります。

明治34年に、最上段の地に奥の院(大日堂、太子堂)を建て、同時に三十六童子像(石像)が、安置されました。

明治39年伏見宮貞愛親王もお立ち寄りになられております。

大正5年、立太子記念に全山の公園化が地元で計画され、丘を平らにし、道路を作り、桜を植え、翌、大正6年5月18日、2,800坪を、成田公園と命名し開園。第19銀行頭取、黒澤鷹次郎氏の支援で岡谷の製糸業が飛躍的に発展したので、この地に銅像が建立されました。市街地を見晴らせばかつての製糸全盛の工場地帯に思いを馳せることができそうです。このころから製糸工場は隆盛期を迎え、毎月28日の縁日を中心にお山は雑踏を極め、サーカスの興行もあり、動物園を経営する人が出るほどでした。

大正12年11月19日、照光寺第27世に晋山した宮坂宥三住職が先達主管に就任しました。

大正14年5月15日、再建落慶式が営まれ、三十六童子と八大童子石像が、本堂裏手斜面に火山岩を配して庭園式に整備安置されました。

昭和になって成田公園は岡谷市に移管されます。

昭和28年、宗教法人「成田山岡谷教会」として登記され、宗教を超越した岡谷全体の成田山として、市長(林健太郎)が責任役員となりました。

昭和50年8月に宥三主管が遷化。照光寺二十八世に就任した宥勝師が兼務主管となり入山式が行われました。

昭和45年、信徒総会が本堂再建を決議し、大隈流の宮大工・石田房茂氏が請け負い、一番弟子の小松金治氏が腕をふるい、38坪の本堂に生まれ変わりました。

昭和46年4月28日、現在の本堂の再建落慶御本尊入佛式が催されました。その後、成田山岡谷教会は成田山岡谷講という信徒組織を中心として発展してきました。

昭和60年(1985年)、開山百年を記念して、寺名を成田山岡谷教会より、成田山蓮華不動院と改号しました。照光寺副住職(当時)の宮坂宥洪師が実務を担当。

昭和62年6月、宮坂宥洪師が同院の初代住職に就任しました。

翌々年の平成元年4月、岡谷成田山蓮華不動院奉賛会が組織され、常夜灯(近衛灯籠)が合計77基、寄進されました。

平成2年山主、岡谷成田山興隆の発願をすると、たちまちに全市はもとより、近隣の市町村、県内外からも多数の浄財寄進の申し出があり、報恩の大聖業は予想をはるかに超えた驚異的な進展を見せ、同年内に山上の奥の院大日堂の再建が実現し、

あわせて大日如来、両祖大師像を新しく迎え、奉安されました。

平成3年、参詣者の急増に対応すべく、本堂に接する脇堂を建立し、本堂前の境内を舗装しました。恵那産の特注（田口石材）の御影石にて、特大、大、中、小の玉垣を造立。405基。

奥の院に成田山蓮華不動院の沿革碑を建立。

平成12年、参道脇を整地して、駐車場を造成。

平成14年4月より、前岡谷区長の小口忠九郎氏が奉賛会会長に就任。奉賛会規約を全面改正し、従来の寺務局を廃止して、専門部会制度を充実させ、部会員が一致協力して同院の諸活動、年中行事に携わるようにしました。

平成20年4月より、小林武志氏が奉賛会会長に就任し、平成22年2月に信徒より大太鼓の寄進を募り奉納しました。

平成23年10月17日、照光寺寺務長宮坂宥澄師が成田山蓮華不動院二世住職に就任。

平成24年4月28日桜満開のもと晋山式を挙行了しました。現住職宥澄師は、真言宗最大の難行、八千枚護摩行を平成16年5月28日（6度目）平成18年5月4日（7度目）平成23年5月1日（8度目）平成24年7月20日（9度目）を成田山蓮華不動院本堂にて修行成満しています。

年中行事は、毎月二十八日の縁日のほか、二年詣り（除夜の鐘）護摩、元朝護摩、初不動、節分祭、春秋の例大祭、納め不動と筆供養祭など。毎日の勤行は午後五時半より。毎週日曜日には護摩法要と山主法話があり、参詣者がたえません。また、寺報「不動心」を年一回発行しています。



2013～2014 年度 RI テーマ
ロータリーを實踐し
みんなに豊かな人生を

